

前回（令和3年7月29日）審議会での景観に関するご意見への検討結果について

番号	前回審議会での意見	
1	植栽について（駐車場以外）	
①-1	意見	築地松の景観を取り入れてもらえることは有り難いが、将来どこまで大きくするかが問題となる。築地松は高さが重要な要素になっており、普通は民家の棟の高さより少し高くするように助言している。通常の築地松は8～12メートル程度だが、体育館の高さは約18メートルある。それ以上高くすることは可能だが、剪定などの維持管理の問題があるので、検討が必要である。
	検討結果	委員ご指摘の築地松の定義とは異なりますが、今回の築地松は出雲地方の景観的なシンボルの一つとしてイメージ的に黒松の並木を取り入れています。 この黒松は当初高さ3メートル、将来的には5メートル程度を維持するよう計画しています。植栽間隔については密ではなく、やや広めとして景観的シンボル性と体育館としての開放感を両立した景観を形成する計画です。
	その理由・要旨	築地松は出雲地方の景観的なシンボルの一つであり、県立大学出雲キャンパス周辺地域の景観形成基準（出雲市景観計画）でも敷地北西には築地松等の緑化措置をとることが示されています。また、体育館としては親しみやすさや立ち寄りたくなる開放的な雰囲気も重要と考えますので、これらを両立するデザインとして黒松の並木を計画しています。密度感としては、剪定直後の築地松のように視線が通る程度を常態としたいと考えています。高さについては、剪定の容易さにも配慮しながら、植栽近く（緑地・憩いの場）にテントサイトを計画しており、法面高さも加えたテントサイトの軒高さに合わせた5メートル程度としたいと考えています。西側道路から見た場合には視線の角度的に、体育館の軒高にも合ってくると思います。
①-2	意見	築地松は出雲市において素晴らしい景観を形成しており、取り入れたいところではある。ただし、県立大学の高木が既に独自のいい景観を創り出しており、それとの調和を図る必要がある。大学の植栽は洋であり、築地松は和のイメージなので、これをマッチングさせるには工夫が必要になる。うまく景観的に調和すればよいが、築地松にこだわって景観としての調和が崩れるのは望ましくない。良い景観を創るため、造園の専門家の意見をよく聞いて、総合的に判断していただきたい。
	検討結果	造園の専門家のご意見もお聞きしながら、開放的な雰囲気の築地松デザインについては、民家に近い敷地の北西側に取り入れます。一方、県立大学との連続性をより重視する体育館へのアプローチ路付近については、よりオープンな植栽計画とし、花木や紅葉樹など季節を感じる景観とする計画です。
	その理由・要旨	敷地北西部分は民家に隣接しており、地域の景観シンボルである築地松を計画します。一方、より県立大学に近い体育館へのアプローチ部分は、県立大学の景観との連続性に配慮した植栽計画としたいと考えています。

②	意見	維持管理は、除草が一番経費がかかる。計画では、地被植物を多く植栽するようになっているが、繁茂させるためには除草をしっかりしないといけない。以前に市内でもシバザクラやマツバフジを植えていたが、雑草に覆われて無くなってしまった。シバザクラは出雲の気候に合わないということもあり、だいたい数年間で消えている。また、ディコンドラも雑草に弱いため、地被植物については再検討したほうがよい。
	検討結果	次の理由によりシバザクラ、ディコンドラは基本的には提案時のままとしますが、委員のご指摘を踏まえ、その維持管理にあたっては、次のとおり十分配慮いたします。ただし、最終的に根付かない状況となった場合には、改めて柔軟な対応を検討します。
	その理由・要旨	敷地西側の県立大学に面した法面は、来館者を迎える顔になる部分として季節を感じることができるよう、また大人数の集客施設として賑やかな雰囲気演出したいとの考えから、シバザクラを選定しています。 委員ご指摘のとおり、国道9号出雲バイパス沿いなどでシバザクラが採用された例では、定着に至らず防草シートに置き換えられた例もありますので、新体育館ではシバザクラが繁茂して横に広がるまでの間は特に注意して雑草の除去を行うことで対応します。また、少しでも気候適合性を高めるためにシバザクラの植栽範囲を養生チップで覆い、雑草の抑制とともに美観にも配慮することとしました。 ディコンドラも、雑草の除去を入念に行うことで対応します。クローバーなど繁殖力の強い樹種への変更も検討しましたが、周辺田畑への種子飛散の影響を考慮して採用しませんでした。
③	意見	桜については、ソメイヨシノが計画されているが、ソメイヨシノは木の寿命が80年～100年と短く、病気や害虫被害を受けやすく、問題になっている。今は神代あけぼのという種類に樹種転換が進められているので、再検討いただきたい。
	検討結果	委員のご意見を踏まえ、ソメイヨシノをジンダイアケボノに変更します。
	その理由・要旨	ご意見を踏まえ、桜はジンダイアケボノに変更します。
2	駐車場の植栽について	
①	意見	もう少し植栽を間に入れるといった、景観に配慮した駐車場にしてもよいのではないかと。
	検討結果	駐車場中央付近にあるバス駐車場の南側に植栽帯を設け、常緑樹であるシマトネリコを列植する計画とします。グランドカバー（地被植物）としてフィリヤブラン、ヤブランを植栽し、駐車場の景観に配慮します。
	その理由・要旨	駐車場の景観と、駐車しやすい、見通しの良さを総合的に考慮し、効果的な位置に常緑で優しい雰囲気を持つシマトネリコを植栽することにより、年間を通して駐車場の景観を整えることを意図しました。

②	意見	<p>駐車場が面積的には相当広い。また、地上げをして、見た目には分からないが傾斜もついている。つまり、駐車場が景観上、大きなウエイトを占める。そうした中で、植栽や照明灯等の工作物の配置、障がい者の方が止める場所、大型バスを止める位置、搬入の問題等を含めた配置については、いろいろ検討されたと思う。混雑時には、大学側の駐車場と体育館の駐車場を併用するという話もあったが、その場合には、利用者のアクセスや動線が変わってくる。そういったことを含めていろいろな配置計画を提案してもらい、総合的に検討していただきたい。</p>
	検討結果及びその理由・要旨	<p>改めて全体を総合的に検討し、敷地北（東）に体育館、メインアプローチ道路に近い北（西）に広場、敷地南に駐車場を配置する計画としています。アプローチはメインの西側道路から、できるだけ緩やかなスロープで長めの車路を取って駐車場に至る計画としており、場内の混雑への対応を想定しています。大型バスはできるだけアプローチに近い場所に確保して、一般車両との同居が少ない計画としています。車椅子利用者駐車場は一般車両と同じルートでアプローチしながら、体育館近くに車椅子専用コーナーを屋根付きで計画しています。大学側駐車場との連携利用時には西側道路からの歩行者アプローチがさらに増えると予想されますので、一般駐車場南側にサブの車両出口を確保するとともに、西側へのメイン車両出口は右左折の車線を分離して交通混雑に対応する計画です。</p>
3	敷地法面への転落防止策の検討について	
①	意見	<p>法面にかなり勾配があるということだったが、体育館という施設の中にある傾斜となると、子どもが誤って下に落ちるとということが心配される。大学の駐車場にはフェンスがあるようだが、安全上の配慮はどうなっているか。</p> <p>【事業者回答】体育館側にフェンス等の計画は無く、法面は植栽により区別し、注意喚起として高木や低木で対応する予定だったが、再検討する。</p> <p>後付けでフェンスとなりがちなため、最初から景観に配慮した形になるようなフェンスを計画したほうがよい。</p>
	検討結果	<p>体育館側法面の転落防止策の再検討結果としては、法面を高木や低木の植栽により区分することに加え、必要に応じて法面部分への立ち入り禁止表示の設置を検討します。また、既に特に危険と判断している箇所（中電鉄塔周り、アプローチ階段擁壁部分）には、景観に配慮しながらフェンスや手摺の設置を計画するほか、法面の工事段階においても事故防止の観点から、現場に応じたフェンス等の追加設置を柔軟に検討します。</p>
	その理由・要旨	<p>法面部分は、同じく子どもが多く訪れる出雲科学館の北西の道路に面した法面と同じ勾配であり、現段階ではフェンス設置を計画済みの箇所は限定していますが、今後安全配慮のため、必要に応じて立ち入り禁止表示や、事故防止の観点からのフェンス等の追加設置の検討を行いたいと考えます。</p>

4	屋根の色について	
①	意見	<p>背景にある北山との調和など考慮され、屋根の形状などに相当工夫をされている。しかし、黒い屋根は、重厚感はあるが、重すぎる。再検討する必要がある。7月22日の地元説明会でも屋根の黒が重すぎるとの意見が出ている。島根には来待色という色があり、地場産の資源であると思っている。いわゆる石州瓦の赤だが、そういった彩色が、県立大学の屋根とのバランスとか、体育館の屋根の色としてふさわしいかどうかということ、パースとか、鳥瞰図といったものも利用し、総合的に検討しておくべきである。これは、地元からも意見が出ている以上、チェックすべきことだと思う。</p> <p>パース図を見たときに、黒一色で、結構大きい面積になるため、ちょっと異質な感じがした。赤系統の金属屋根というものもあるので、いろいろ意見を聞いて決定して欲しい。</p> <p>パース図を見ると、屋根の色は暗すぎる。山陰は暗いイメージがあるので、例えばさわやかな色、青色とかも比較すべきである。明るい雰囲気が必要である。</p> <p>北山の景色が濃い緑で描いてあるが、北山の紅葉も素晴らしい。どちらにも合うような色を考えていただきたい。</p> <p>それは建物だけでなく、周辺の植栽にも言えると思う。</p>
	検討結果	<p>委員の皆様や地元のご意見をもとに、パースや色見本などを用いて、様々な角度から総合的に改めて検討しましたところ、やはり基本的には提案時の黒系色を採用したいと考えます。</p> <p>なお、黒系の色合いは、できるだけ明るめなものとなるよう「いぶし銀」のイメージを採用する予定です。</p> <p><参考提示資料> ○ 屋根の色見本</p>
	その理由・要旨	<p>屋根素材は軽量かつ維持管理が容易な金属屋根を採用する予定であり、赤系の色検討も行いましたが、来待色の赤みの雰囲気を出すことは難しく、総合的に判断し黒系が本施設に適していると考えます。</p> <p>なお、県立大学とのバランスに関する提案の考え方としては、金属屋根の色を黒系とし、最も近接する県立大学出雲キャンパス（5号館）からの連続性に配慮したものとしています。</p>
②	意見	<p>金属屋根は寒々しいイメージがあるので、最近の材料の特徴をチェックして、現地にふさわしいものを選定していただきたい。</p>
	検討結果	<p>瓦棒葺きとします。</p> <p><参考提示資料> ○ 屋根の色見本</p>
	その理由・要旨	<p>参考資料にありますように金属屋根でも寒々しいイメージにならないよう配慮したいと考えています。</p> <p>また、大学の瓦形状に合うように金属屋根の中でも瓦棒葺きを採用しています。</p>

③	意見	(説明資料の中に)「出雲デザイン」という言葉も盛り込まれているが、それが何を意味しているか、明確にしないと具体的なイメージが湧かない。
	検討結果	「出雲デザイン」とは、具体的には、山並みをイメージした屋根形状と、田園風景をイメージした外観割り付けを意味しています。
	その理由・要旨	計画地北側にある北山の魅力的な稜線の重なりや、田園のグリッドライン(格子状の線)をモチーフとしたデザインで、出雲らしい新たなランドマークとしての施設を整備するものです。 さらに、出雲平野にある築地松や切妻屋根の家が出雲らしさにつながると考えます。
5	外壁の色彩・形状について	
①	意見	外壁をパターン化とか分割化すると言われたが、市内のある大型施設で、外壁が分割されたものがある。都市部から帰省した人から、出雲にふさわしい景観ではないという意見も聞いている。色彩的にも、景観的にもかなり影響があると思っているので、色彩や形状を変化させた、いろいろなパターンを提示してもらって、この方法がよいのか、別の方法がよいのかも含め、再検討すべきだと考える。
	検討結果	副会長のご意見をもとに、パースなどを用いて、各種のパターンを総合的に改めて検討しましたところ、やはり基本的には提案時の外壁パターンを採用したいと考えます。 <参考提示資料> ○ 外壁の色見本
	その理由・要旨	分割化しないフラット案や色変更の検討を行い、温かみのある色とし、建物のボリューム感をなくすパッチワークの割付としています。 割付デザインは出雲平野の田園の縦横に走る畦道をモチーフにしており、これが、施設周囲に広がる田園風景と調和すると考えています。色彩については極力彩度を落とし、表面デザインのパターンによって濃淡を表現することで、周辺の農村風景を阻害せず、統一感のある景観を形成すると考えます。

<新体育館建設の今後の予定>

- 実施設計 ～ 令和4年 7月
(景観関係通知等の法令手続を含む)
- 建設工事 令和4年 8月 ～ 令和5年12月 (16か月)
- 開業準備 令和6年 1月 ～ 令和6年 3月 (3か月)
- 開館 令和6年 4月
- 維持管理・管理 令和6年 4月 ～ 令和21年3月 (15年間)